

”県民主役”の復興、県民要求の実現へ向けてスタート

天下みゆきさん (前県連事務局長) 県議選で当選！！



県議選で初当選した
天下みゆきさん
11/17県連事務局で

11月13日投票で行われた宮城県議会議員選挙で、天下みゆきさん(前宮城民医連事務局長)が、塩釜市選挙区(定数2)で、初当選を果たしました。

天下さんは、3.11の東日本大震災に際して、災害拠点病院となっている坂総合病院で、民医連の仲間とともに地域医療を守るために、先頭に立って奮闘されました。震災後も県連事務局長として復興のため、様々な支援活動等に取り組んできましたが、政治を変えなければ“県民主役”の復興は果たせないと、事務局長の職を辞し、塩釜市選挙区から立候補したものです。

今回の県議選では、被災者の生活と生業の再建を最優先に復興を進めるのか、被災者の立場ではなく大企業のもうけ口を増やすのか、復興をどうすすめるのが最大の争点になりました。また、「水産特区」、仮設住宅建設の「プレハブ協会」への丸投げ、「二重ローンの解消」、年金改悪、TPP問題などで、県民の立場に立った訴えが県民の共感を集め、激戦を制して当選を果たしたものです。

天下さんはこれまで、どのような場面でも“いのちの平等”をバック・ボーンに活動されてきました。これからは県政の場で、大震災の復興、県民要求の実現に向けて、奮闘されるものと期待しております。(神馬)

11/19 移動なんでも相談会 気仙沼市大谷中学校仮設住宅

あまりの寒さにビニール袋をまとって過ごしました



渡辺みつ子さん(写真左・坂総合病院看護師)は気仙沼市出身。お姉さん宅が津波で全壊。地元の事情が良く分かるので、親身になって被災者の相談にのっていました。

11月19日、“移動なんでも相談会”が、気仙沼市大谷中学校グラウンド仮設住宅で(186世帯)開催されました。

宮城民医連からは看護師3人、事務6人の合計9人がボランティア参加しました。

佐藤ちよ子さん(73)は本吉町三島地区の出身で、津波で、自宅は全壊。狭い地域ですが海岸沿いで、21人が亡く

なられたといえます。仮設住宅では近所の人と一緒にいるので淋しさはあまりない。これまで仮設住宅に自治組織はなかったとのことですが、今夜、自治組織を作るための初めての会議がもたれるとのこと。独り暮らしなので、健康については気をつけているといえます。大谷中学校で避難していた時は、先生や生徒がコーヒーを入れてくれたり、掃除を手伝ってくれた。あまりの寒さで配布されたビニール袋を纏って過ごした。今は記念にとあってありますと話してくれました。

健康が気になるのでまたやってほしい

古川民主病院で健康相談会



10月1日、美里町中卒の仮設住宅集会所で、健康なんでも相談会を開催、仮設にお住まいの方20人が参加し、古川民主病院の職員8人が対応しました。

入居者のみなさんは、お茶と手作りのお菓子を頂きながら、ゆったりくつろげて本当に楽しかった。健康が気になるのでまたやってほしい。お金のことが心配などと話していました。現在、被災者アンケートを整理中ですが、これから冬に向けて寒くなるので、寒さ対策等、自治体の素早い対応が求められます。(村山むつ子*古川民主病院)